



第  
14  
回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

# 紀州さんぽ散珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

## 『稲むらの火』の物語



広村堤防

地球の裏側で地震が起こした津波のために全国的な騒ぎになって、和歌山県でも沿岸に津波警報が発令され、JR紀勢線が運休したのは今年3月のことでした。

当地有田では、国内はもとより海外にも広く知られた『稲むらの火』の物語があります。

この物語を改めて詳しく紹介する必要はないと思いますが、稲むらに火を放ち大津波から多くの村人を救った『稲むらの火』の物語は、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）によって紹介されました。主人公浜口儀兵衛は実在の人物で、（現）ヤマサ醤油の当主であり佐久間象山に学び、勝海舟・福沢諭吉等と親交を結び、耐久社（現県立耐久

高校）を創立するなど、後進の教育や社会事業の発展にも努めました。

『稲むらの火』の元になった安政の大地震（安政元年—1985年）の後、儀兵衛が私財を費やし4年の歳月をかけて築いた大津波堤防「広村堤防」は、津波によって職を失った人（述べ56,736人）の職をつくり、さらに昭和21年（1946年）の南海地震津波から住民を守りました。この全長600m・幅20m・高さ5mの堤防は現在でもその姿を見ることができ、その功績を偲ぶことができます。

堤防の内側を歩くと、「稲むらの火の館」の西浜口家や庭の一部を公園として開



東浜口公園



東浜口家

放されている東浜口家をはじめとして、立派で興味深い住宅が軒を連ねていて、ゆっくりと周辺を散策すると私たちが忘れかけている古い時代の暮らしの良さを思い出させてくれる気がします。

この街並みを今見ることができるのも、儀兵衛が築いた堤防のおかげと言えるのかもしれません。

広村堤防を越えてさらに進むと、町立耐久中学の敷地内に耐久社や浜口梧陵銅像などがあり、更に物語や儀兵衛への思いが深まります。



浜口梧陵銅像



耐久社

私たち和歌山で建築に携わる者は、近く必ずおこるであろう南海大地震を軽く考えることはできません。津波に対しての備えは別の分野であるかも知れませんが、浜口梧陵の功績から私たちが地震に対して考えなければいけない、建築に対しての責任を振り返ることができる場所であると考えます。



街並み

有田支部 上野山和男